

2027 年度

基幹理工学部

社会理工学部

先進理工学部

高大接続型自己推薦
入学試験要項

本冊子と併せて『特別入試出願手引』も必ず確認してください。

『特別入試出願手引』

<https://www.chuo-u.ac.jp/connect/admission/special/guide/>



中央大学
CHUO UNIVERSITY

— 記載内容 —

〔1〕 募集学部・学科・募集人員

〔2〕 出願資格

〔3〕 試験日程

〔4〕 出願書類

〔5〕 学部・学科別詳細

〔6〕 学科別 Q&A

〔7〕 その他

以下の内容については別冊『特別入試出願手引』を確認してください。

入学試験における注意事項

出願手続

入学検定料の支払い

出願書類における注意事項

入学手続

学費その他納入金

奨学金

—入学試験について—

本要項に記載の入学試験は、文部科学省の定める大学入学選抜実施要項における「総合型選抜」として実施するものです(アドミッション・ポリシーについては、本学Webサイト：<https://www.chuo-u.ac.jp/connect/admission/policy/>より確認してください)。

合否は、出願書類(調査書、その他の証明資料および志願者記載資料)や選考方法によって、総合的に判定します。

【1】 募集学部・学科・募集人員

本入試制度は自由応募制です。他の入試制度や本学他学部、他大学との併願を認めています。

志望学部・学科は3学部10学科のうち、1学科に限ります。選考の結果、合格者数が募集人員に満たない場合があります。

	学科	要旨	募集人員
基幹理工学部	数学科	数学に興味と関心を抱き、数学科での勉学を活かして将来社会へ貢献したいと希望している、個性豊かな方が本学数学科で学べるように、基礎学力、学習意欲、創造力に基準を置いた選考を行います。	8名
	物理学科	物理に興味をもち、物理の考え方を応用して社会に貢献したいと希望している、個性豊かな方に本学物理学科に進学して欲しいと考えています。大学での勉強と研究は高等学校での学びを基礎としたものです。在籍(出身)高等学校の教員1名をメンター(助言者)とし、そのアドバイスの下、探究課題レポートを作成して応募してもらう、高大接続型入試を行います。1次選考の探究課題レポートでは「思考力・判断力・表現力」の評価項目である「問題解決力」と「創造力」を基準においた選考を行います。2次選考の筆記試験では「知識・技能」の評価項目である「知識獲得力」と「専門性」を、また、レポート発表では「主体性・協働性」の評価項目である「自己実現力」と「コミュニケーション力」を基準においた選考を行います。	6名
	応用化学科	応用化学の分野に興味と関心を持ち、意欲と探究心を持って学業に励み、本学科で学んだことを活かして将来社会に貢献したいと希望する方に対し、基礎学力、創造性、知的好奇心、学習意欲といった点に基準を置いた選考を行います。	1名
	生命科学科	生命科学の分野に関心があり、意欲と探究心をもって主体的に学業に励み、本学科で学んだことを活かして将来社会に貢献したいと希望する者を募集します。高い基礎学力をもつことを前提とし、おもに学習意欲、主体性、知的好奇心、論理性、創造力、コミュニケーション力に基準を置いた選考を行います。	1名

	学科	要旨	募集人員
社会理工学部	都市環境学科	社会基盤施設の整備・維持管理を担う社会基盤系、持続可能な技術とデジタルツインを担う水環境・防災系、快適で多様な活動が生まれる公共空間を市民とともに計画・創造する計画系に興味と関心を抱き、将来、都市環境学科で学んだ知識を活かして、社会に貢献したいと希望している個性豊かな方の基礎学力、学習意欲、創造力、行動力等を適切に判定できるように選考を行います。	3名
	ビジネスデータサイエンス学科	企業や組織のデータサイエンス分野に興味と関心を持ち、意欲と探究心を持って学業に励み、本学科で学んだことを活かして将来社会に貢献したいと希望する方に対し、基礎学力、創造力、知的好奇心、学習意欲といった点に基準を置いた選考を行います。	2名
	人間総合理工学科	人間総合理工学科では、地球環境と人間の生活の質を持続的に維持・向上するという目標に向け、より複雑化し多様化する社会の課題に挑戦・貢献できる複眼的思考力を持った理工系人材の育成を目指しています。そこで、学問分野にとらわれない幅広い理工学における旺盛な学習意欲を持つ、個性豊かな学生を募集します。人間総合理工学科の高大接続型自己推薦入学試験では、学部・学科の理念や教育内容をよく理解し、本学科への入学を強く志し、高レベルでの自己実現を図ろうとする情熱と明確な志望を持った方を積極的に受け入れます。国内の学生に限らず、海外帰国生・国際バカロレア資格取得者等の応募も積極的に考慮します。人間総合理工学科における単位修得に必要な基盤となる学力を出願書類等により確認したうえで、本学科が目指す人物像に鑑み、受験者自身が自らアピールした書類・提出資料、およびプレゼンテーションの内容に基づいて総合的に合否判定します。	8名

	学科	要旨	募集人員
先進理工学部	精密機械工学科	精密機械工学に興味と関心を抱き、将来は精密機械工学に関して学んだ知識や経験を活かして社会に貢献したいと希望する、創造性の豊かな諸君が本学精密機械工学科で学べるように、基礎学力、学習意欲、創造力、表現力に基準を置いた選考を行います。	5名
	電気電子情報通信工学科	将来本学電気電子情報通信工学科での勉学を活かして社会に貢献したいと希望する者に対し、主体性、洞察力、知識獲得力を基準とした選考を行います。	5名
	情報工学科	情報工学科は、情報分野の幅広い業種にわたりミドル～トップマネージメントの担い手となるため、専門性と共に広範な基礎知識を身に付け、夢の実現に向けて学び挑戦し続ける心と、研究活動や学会での研究発表等を通じて培われるコミュニケーション力を備え、集団および社会における自らの役割を常に意識し、正しい倫理観をもって行動できる知性的な人材の育成を目指し、これらの資質を有する学生の候補者を積極的に募集します。具体的には、高等学校等において知識・技能の確実な習得を促すべく、数学の自筆ノートの提出を通じておもに「知識獲得力」および「専門性」を確認し、高等学校等において知識・技能の確実な習得を基にした思考力、判断力、表現力を培うことを促すべく、筆記試験および面接を通じておもに「問題解決力」および「創造力」を確認し、さらに高等学校等において主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を培うことを促すべく、能動的学習の実績を通じておもに「コミュニケーション力」「組織的行動能力」「自己実現力」「多様性創発力」を確認します。このようにして受験者自身が自らアピールした内容に基づき、総合的に合否判定します。	1名

【2】 出願資格

以下の 2-1.【学部・学科共通出願資格】と出願学科に必要な要件である 2-2.【学部・学科別出願資格】の両方に該当する者であること。

2-1.【学部・学科共通出願資格】

2027年3月31日までに、以下①～⑫のいずれかに該当する者(見込み含む)

- ①高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- ②特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を修了した者
- ③外国において学校教育における12年の課程を修了した者(注1)
- ④外国における12年の課程修了相当の学力認定試験に合格した18歳以上の者(注1)
- ⑤外国において文部科学大臣が指定した11年以上の課程を修了したとされるものであること等の要件を満たす高等学校に対応する学校の課程を修了した者
- ⑥文部科学大臣が外国の高等学校相当として指定した外国人学校を修了した者(注1)
- ⑦高等学校と同等と認定された在外教育施設の課程を修了した者
- ⑧文部科学大臣が指定した専修学校の高等課程を修了した者
- ⑨文部科学大臣が指定した外国の大学入学資格を保有する者
- ⑩文部科学大臣が指定した国際的な評価団体の認定を受けた教育施設の12年の課程を修了した者
- ⑪高等学校卒業程度認定試験(旧大検)に合格した18歳以上の者(注2)
- ⑫本学の個別入学資格審査において認められた18歳以上の者

※⑩～⑫については学科別に取扱いが異なります。⑩～⑫での出願を希望する場合は、出願期間開始日の1か月前までに入試課(問い合わせフォーム: <https://chuo-admissions.zendesk.com/hc/ja/requests/new>)に問い合わせてください。

なお、審査結果の通知には10日ほど日数を要しますので、時間に余裕を持って手続を行ってください。

注1:12年未満の課程の場合はさらに、文部科学大臣が指定した準備教育課程又は研修施設の課程を修了する必要があります。

注2:2026年度第1回までの実施試験を対象とします。

2-2.【学部・学科別出願資格】(P.6～『5』学部・学科別詳細を参照)

学部・学科別出願資格の内容は、P.6以降に記載されている各学部・学科の出願資格を確認すること。

海外の高校を卒業した者(見込みの者を含む)で学習成績による出願を希望する場合は、出願前審査が必要です。

出願期間開始日の1か月前までに入試課(問い合わせフォーム: <https://chuo-admissions.zendesk.com/hc/ja/requests/new>)へ問い合わせてください。

【学部・学科別出願資格についてのお問い合わせ先】

理工三学部事務室 TEL: 03-3817-1715 / お問い合わせフォーム: <https://www.chuo-u.ac.jp/inquiry/form/?id=8>

【3】 試験日程

選考は、2段階選考となります。

1次選考=出願書類に基づく書類選考です。2次選考=試験会場において実施します。

出願期間 (締切日消印有効)	2026年9月9日(水) 10:00～9月16日(水)
1次選考(書類選考) 合格発表日時 (受験票取得開始日時)	2026年10月16日(金) 11:00～ - 合格発表は「UCARO」にて行い、合否結果通知の郵送は行いません。 - 合否に関する問合せには一切応じません。 1次選考合格者は、1次選考合格発表以降「UCARO」にて受験票を取得してください。 - 受験票の郵送は行いません。各自で印刷し、2次選考当日に持参してください。 [受験票の取得方法] 「UCARO」にログインし、「受験一覧」で該当する入学試験を選択してください。 「受験票・受験番号照会」の画面に進み、「受験票を印刷する」ボタンをクリックし、画面の案内に従って受験票をA4に印刷してください。 ※印刷できない等の場合は、UCARO・Web出願ヘルプデスク(TEL 03-6634-6494)へ連絡してください。 ※「カナ氏名」等、記載内容に誤りがある場合は、入試課(問い合わせフォーム:https://chuo-admissions.zendesk.com/hc/ja/requests/new)へ連絡してください。 但し、出願内容(試験方式・学部・学科)は一切変更できません。
2次選考試験日	2026年11月14日(土) 中央大学後樂園キャンパス 2次選考では、1次選考合格者を対象に、学科ごとに試験を実施します(詳細はP.6～18参照)。 ※選考方法に関する問い合わせ(面接の形式や面接時間、筆記試験の内容に関する質問等)については、一切応じることができません。一部学科の選考方法の詳細に関しては、「P.19 【6】 学科別Q&A」を参考にしてください。
合格発表日時	2026年11月20日(金) 11:00～ 合格発表は「UCARO」にて行います(2027年3月31日(水)の23:59まで確認可能)。 ※合格通知書や合格証の発送は行いません。UCAROにログインし、「合否照会」の画面に進み、「合格通知書を印刷する」をクリックすると「合格通知書」のダウンロードができます。また、合否に関する問合せには一切応じません。 ※UCAROの合否照会画面、合格通知書、振込用紙等をインターネット上で発信する行為、インターネット上から入手したUCAROの合否照会画面、合格通知書を偽造する行為を固く禁じます。そのような行為をした場合、警察へ被害届を提出する等の対応をとることがあります。
入学手続期間	2026年11月20日(金)～11月30日(月) ※入学手続の概要は、『特別入試出願手引』を必ず確認してください。

受験上の注意

- ①後樂園キャンパスの開門時間は8:00です。
- ②試験会場へは公共交通機関を利用し、時間に余裕を持って来校してください。なお、首都圏の主要な公共交通機関に乱れ・遅れが生じ、遅刻しそうな場合は、速やかに理工三学部事務室(TEL 03-3817-1715)までお問い合わせください。
- ③受験票・筆記用具・時計は試験当日必ず持参してください。受験票(裏面も含む)には、一切の書き込みを禁止します。試験当日、書き込みのある受験票を持参した場合、不正行為となる場合があります。なお、受験票を忘れた場合は、理工三学部事務室(後樂園キャンパス6号館2階)まで申し出てください。
- ④昼食は各自で用意してください。ごみは各自で持ち帰ってください。
- ⑤スマートフォン、携帯電話、タブレット型端末・ウェアラブル端末等の電子通信機器は、試験教室に入る前に電源を切って、かばん等にしまってください。また、アラーム機能がある場合は、音が鳴らないよう設定してください。これらを時計として使用することはできません。
- ⑥生活騒音(航空機、自動車、風雨、空調その他室内設備から生じる音、動物の鳴声、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音等)に対する特別な措置は、原則として行いません。
- ⑦カンニング行為や他の受験者の迷惑となる行為等、監督者が不正行為と判断した場合、本受験は無効とします。また、当該年度における本学のすべての入学試験の受験を認めません。すでに合格していた場合には合格を取り消し、入学していた場合には合格と入学の双方を取り消します。なお、このことによる入学検定料、学費等の返還は一切行いません。不正行為者の在籍(出身)学校や警察に報告・通報します。

【4】 出願書類

出願にあたっては、4-1.【学部・学科共通出願書類】と4-2.【学部・学科別出願書類】の書類を取りそろえ、出願期間内に提出してください。

●：必須 ○：該当者のみ

学部	学科	出願書類(所定用紙)									参照ページ
		調査書	No.1	No.2 (1)	No.2 (2)	No.2 (3)	No.3	No.4	No.5 (1)	No.5 (2)	
基幹理工	数学	●	●	●			●	○			P.6
	物理	●	●		●		●			●	P.7
	応用化	●	●	●			●	●	●		P.8
	生命科	●	●	●			●	○	●		P.9
社会理工	都市環境	●	●	●		●	●	●	●		P.11
	ビジネス サイエンス	●	●	●			●	●	●		P.12
	人間総合理工	●	●					●	●		P.13
先進理工	精密機械工	●	●	●			●	●	●		P.15
	電気電子 情報通信工	●	●	●			●	●	●		P.16
	情報工	●	●	●			●	●	●		P.17

4-1.【学部・学科共通出願書類】

書類	内容
高等学校等の調査書 【全員提出】	2027年3月卒業見込みの者は第3学年1学期(2学期制の場合は前期)までの「調査書」(厳封印付き厳封)。 - 海外の高等学校を卒業(見込み)の者は、「卒業(見込み)証明書」および「成績証明書」(第12学年または最終学年を含む3学年分の成績が記載されたもの)を提出すること。 - 卒業するまでに複数の高等学校に在籍した者は、各高等学校の調査書(編入学・海外留学により単位認定を受けたものは単位認定の成績証明書)を提出すること。但し、最終出身高等学校の調査書に全ての成績(または取得単位)が記載されている場合は当該調査書のみで可。 - 卒業から5年以上経過し、調査書の発行ができない場合は、「卒業証明書」を提出すること。 なお、出身(在籍)高校で卒業証明書の発行を行っていない場合は、成績証明書に卒業年月が記載されていれば、卒業証明書の代わりとして受け付けます。 - 大学入学資格検定合格者・高等学校卒業程度認定試験合格(見込み)者で、出願資格を認められた者は、卒業証明書・調査書の代わりに「合格(見込み)成績証明書」を提出すること(合格に際して免除科目がある場合でも、免除科目に関する証明書の提出は不要です)。 ※高等学校卒業程度認定試験は2026年度第1回までの実施試験を対象とします。 《調査書提出の留意点》 2学期制の高等学校や留学等の本人の責に拠らない事由で、第3学年1学期末または前期末までの成績が記載された調査書を提出できない場合、第2学年修了時または直近の成績が記載された調査書を提出してください。また、調査書備考欄にその旨を必ず記載してください。成績が出た後の追加提出は不要です。 - 学習指導要領上で同程度の内容を含んでいれば、他の科目の名称でも可とします。 その場合、調査書備考欄または別紙(任意書式)にその旨注記をしてください。
志願者経歴書 (所定用紙No.1) 【全員提出】	本学所定用紙を本学WebサイトよりA4に印刷のうえ、記入すること。

※外国の高等学校や、各検定試験実施機関等から本学へ証明書等を直接送付する場合は、2026年4月1日から出願期間最終日まで
に本学に到着したものに限り、2027年度入試の出願書類として受け付けます。

4-2.【学部・学科別出願書類】

P.6以降に記載の各学部・学科の【出願書類】を確認のうえ作成し、4-1.【学部・学科共通出願書類】と併せて提出してください。

【5】学部・学科別詳細

基幹理工学部

<数学科>

【出願資格】

本学で数学を学習するための基礎学力(数学Ⅲまでの基礎知識)を持ち、さらに以下(1)～(6)のいずれかに該当し、数学に関する学習意欲、創造力をアピールできる者。

(1)卒業見込みの者は最終学年1学期(2学期制の場合は前期)まで、卒業した者は最終学期までの5段階方式による「数学」の学習成績の状況が4.8以上の者。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

(2)中学校・高等学校在学中に、数学に関する活動で成果をあげた者。

例えば、数学に関して、雑誌に投稿したり、解答を送って採用される等。

(3)科目等履修生として本学数学科で単位を取得した者。

付記:本学数学科科目等履修生として取得した単位は本学科に入学した場合、本学の卒業単位として申請することができます。

(4)日本数学オリンピック予選AランクまたはBランク。

(5)日本情報オリンピック予選AランクまたはBランク。

(6)情報処理やコンピュータに関して少なくとも1つ資格を有する者。

【出願書類】

■自己推薦書(「所定用紙No.2-(1),No.3」)

あなたが数学に関して特に興味を持ち、印象に残っている事柄、数学に関して自己アピールしたい事柄について、まず「所定用紙No.2-(1)」に100字以内で要約し、「所定用紙No.3」に500字以内(1枚)で詳しく記述してください(横書き)。

■活動実績等に関する資料証明書(表紙)(「所定用紙No.4」)

上記【出願資格】(2)～(6)に該当する場合のみ、証明する書類を提出してください。

①自己推薦書に記載した事柄について、証拠となる資料で本人氏名が記載されているものを提出してください(コピー可・原本証明不要)。

「所定用紙No.4」を表紙として、資料本体は全てA4に揃えてください。なお、資料中の本人氏名の部分には、マーカーあるいは赤鉛筆で印をつけてください。本人氏名が記載されていないものは、本人の活動実績であることが客観的に判断できる資料とともに提出してください。

例:資格試験の合格証、賞状、活動が掲載された新聞、雑誌、Webページの写し等

②資料番号は上から順に連番としてください。

【選考】

<1次選考>

出願書類に基づく書類選考

出願書類の結果を総合的に判断して可否を判定します。

<2次選考>

筆記試験、面接の結果を総合的に判断して可否を判定します。

①筆記試験(90分):午前

基本的な題材により数学的思考力を問うもの。

②面接:午後

<物理学科>

【出願資格】

メンター(助言者)として、在籍(出身)高等学校の教員(理科または数学の教員とする。物理担当教員が望ましい)1名を指定し、そのアドバイスの下、本学物理学科のWebサイト(<https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/koudaibutsuri>)に掲載された探究課題の中の1テーマについて研究した者で、以下に該当する者。

卒業見込みの者は最終学年1学期(2学期制の場合は前期)まで、卒業した者は最終学期までの、それぞれ5段階方式による英語、数学、物理の学習成績の状況がそれぞれ4.0以上の者。

※但し、英語は「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、数学は「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」、「数学C」、物理は「物理基礎」、「物理」を履修していること。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

【出願書類】

■探究課題の中から選んだ1テーマに関して「所定用紙No.3」またはA4に記したレポートを提出してください。またレポートの添付書類として、「所定用紙No.2-(2)」および「所定用紙No.5-(2)」を以下に記載の作成方法のとおり提出してください。所定の表紙「所定用紙No.2-(2)」と本文はクリップを使ってまとめてください。

《レポートの作成方法》

- ・レポート本文については、図やグラフを使うことが望ましいです。図やグラフは本文の適当な位置に記入するか、貼り付けてください。
- ・レポート本文の長さは、2,000～4,000字程度とします。
- ・手書きでも、パソコンを使用しても構いません。パソコン使用の場合は、12ポイント以上の文字で印字してください。パソコンで印字した用紙を「所定用紙No.3」に貼り付けても構いません。

《添付書類の作成方法》

- ・所定の表紙「所定用紙No.2-(2)」に在籍・出身学校名、氏名(フリガナ)、選んだ探究課題の番号とレポートの題名、およびレポートの要約を記入してください。
- ・メンター(助言者)である高等学校教員は、在籍(出身)校のメンター(助言者)による所見「所定用紙No.5-(2)」に受験生の氏名(フリガナ)と高等学校所属課程学科・コースを記入し、受験生のレポートに関して所見を書いてください(PC作成不可)。所見としては、「受験生に対して、実験やレポート作成の際にどのようなアドバイスをしたか」、また「それに対する受験生の応答」を記述してください。担当されている科目を記入のうえ、署名捺印をしてください。

【選考】

物理学科のWebサイト(<https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/koudaibutsuri>)に掲載された探究課題の中から1テーマを選んでください。それについて、以下の要領で選考します。

<1次選考>

出願書類の内容に基づき「問題解決力」と「創造力」を評価します。

在籍(出身)高等学校の教員(理科または数学の教員とする。物理担当教員が望ましい)1名をメンター(助言者)とし、そのアドバイスの下、探究課題にチャレンジしてください。実験および考察を行い、それをまとめたレポートを提出してください。レポート添付書類には、必ずメンター(助言者)の所見を記入してください。

<2次選考>

筆記試験、レポート発表の結果を総合的に判断して可否を判定します。

①筆記試験(60分)：午前

探究課題を深く理解するために必要な、高等学校の物理および数学に関する試験問題を解いてもらいます。

基礎的な問題を課すことにより、「知識獲得力」と「専門性」を評価します。

②グループ内でのレポート発表：午後

受験生を少人数グループに分けます。グループごとに、他の受験生と数名の審査委員(大学教員)の前で、各自10分間ずつ発表をしてもらい、その場でディスカッションをします(質疑応答は、受験生同士が5分間、審査委員とは10分間程度とします)。

「自己実現力」と「コミュニケーション力」を評価します。

※各自でスライドの電子ファイルを用意し、HDMIコネクタを備えたパソコンを持参してください。

プロジェクターとスクリーンはこちらで用意します。

<応用化学科>

【出願資格】

以下(1)および(2)の両方に該当する者。

(1)卒業見込みの者は、最終学年1学期(2学期制の場合は前期)まで、卒業した者は最終学期までの5段階方式による全体の学習成績の状況が4.2以上の者。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

(2)本学で応用化学を学ぶための基礎学力、探究心、創造性をアピールできる者。例えば、以下①か②のいずれかに該当する者またはそれと同等と認められる者。

①化学に関する活動で成果をあげた者。例えば、日本化学会等が主催・共催する学会・発表会で化学に関する研究成果を発表した者(発表要旨やプログラム等の資料を提出すること)。

②化学に関連した研究や調査の結果に対して公的な表彰を受けたことがある者。

【出願書類】

■自己推薦書(「所定用紙No.2-(1)、No.3」)

あなたが自己アピールしたい事柄、特に化学に関連した事柄について、まず「所定用紙No.2-(1)」に100字以内で要約し、「所定用紙No. 3」に500字以内(1枚)で詳しく記述してください(横書き)。

■活動実績等に関する資料証明書(表紙)(「所定用紙No.4」)

上記【出願資格】に関連する書類を提出してください。

①自己推薦書に記載した事柄について、証拠となる資料で本人氏名が記載されているものを用意してください(**コピー可・原本証明不要**)。「所定用紙No.4」を表紙として、資料本体は全てA4に揃えてください。なお、**資料中の本人氏名の部分には、マーカーあるいは赤鉛筆で印をつけてください**。本人氏名が記載されていないものは、本人の活動実績であることが客観的に判断できる資料とともに提出してください。

例：資格試験の合格証、賞状、活動が掲載された新聞、雑誌、Webページの写し等

②資料番号は上から順に連番としてください。

■教員による所見(「所定用紙No. 5 -(1)」)※PC作成可

在籍または卒業した学校の教員の所見を記入いただき提出してください。記入いただく教員は、本人の高校生活をふまえて作成することができれば役職等は問いません。(例：校長、クラス担任、クラブ顧問等)

【選考】

<1次選考>

出願書類に基づく書類選考

出願書類の結果を総合的に判断して合否を判定します。

<2次選考>

筆記試験、面接の結果を総合的に判断して合否を判定します。

①筆記試験(60分)：午前

日本語および英語の読解力や記述能力、論理的思考能力、問題解決能力、創造力等を判断します。

②面接(20分程度)：午後

面接では、自己アピール(5分以内)をしていただいたうえで、出願書類と筆記試験の結果も含めて質疑応答を行います。同時に化学の技術・知識に関する質疑応答も行います。なお、自己アピールでは、パソコンを使ったプレゼンテーションや、ポスター、スケッチブックによるプレゼンテーションが可能です(会場にはWindowsパソコンおよびプロジェクターが準備されています)。また、自己アピールの根拠となる資料等があれば持参してください。

＜生命科学科＞

【出願資格】

以下(1)および(2)の両方に該当する者。

(1)卒業見込みの者は、最終学年1学期(2学期制の場合は前期)までの、卒業した者は最終学期までの5段階方式による全体の学習成績の状況が4.2以上の者。

※但し、英語は「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、数学は「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」、「数学C」、理科は生物(「生物基礎」および「生物」)を履修し、物理(「物理基礎」および「物理」)、化学(「化学基礎」および「化学」)のいずれかを履修していることが望ましい。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

(2)本学で生命科学を学ぶための基礎学力、主体性、知的好奇心、論理性、創造力、コミュニケーション力を強くアピールでき、以下のいずれかに該当する者またはそれと同等の実績があると認められる者。

①高等学校の理科で極めて優秀な成績を修めている者。

生物(「生物基礎」および「生物」)と、理科3科目(注)のうちから1科目のいずれでも、学習成績の状況が4.4以上の者であること。

(注)理科3科目：物理(「物理基礎」および「物理」)、化学(「化学基礎」および「化学」)、あるいは地学(「地学基礎」および「地学」)

※但し、卒業見込みの者は、最終学年1学期(2学期制の場合は前期)までに履修した科目の成績、卒業した者は、全学年で履修した科目の成績の状況を対象とする。

②日本生物学オリンピックに出場し、全国での一次選抜に残った者(受験票のコピー、およびその予選通過等の資料を提出すること)。

③日本学生科学賞に個人として受賞した者(表彰状のコピーを提出すること)。

【出願書類】

■自己推薦書(「所定用紙No.2-(1)、No.3」)

あなたが自己アピールしたい事柄、とくに生命科学に関連した事柄について、まず「所定用紙No.2-(1)」に100字以内で要約し、「所定用紙No.3」に1,000～1,500字以内(2～3枚)で詳しく記述してください(横書き)。

■活動実績等に関する資料証明書(表紙)「所定用紙No.4」

上記【出願資格】に関連する書類を提出してください。ただし、学習成績の状況で出願する場合は、この書類を提出する必要はありません。

①自己推薦書に記載した事柄について、証拠となる資料で本人氏名が記載されているものを用意してください(コピー可・**原本証明不要**)。「所定用紙No.4」を表紙として、資料本体は全てA4に揃えてください。なお、**資料中の本人氏名の部分には、マーカーあるいは赤鉛筆で印をつけてください**。本人氏名が記載されていないものは、本人の活動実績であることが客観的に判断できる資料とともに提出してください。

例：資格試験の合格証、賞状、活動が掲載された新聞、雑誌、Webページの写し等

②資料番号は上から順に連番としてください。

■教員による所見(「所定用紙No.5-(1)」)※PC作成可

在籍または卒業した学校の教員の所見を記入いただき提出してください。本人の高校生活をふまえて作成できる教員であれば、役職等は問いません(例：校長、クラス担任等)。

■その他の提出書類(任意)

上記の提出書類以外に、あなた自身の個性や大学に入学してからの履修に関する能力の評価において考慮してほしい事柄を示すものがあれば、受験者自身の判断で選択した資料等を、最大3点まで提出することができます。これらの資料は紙の書類のみとし、各資料についての説明(それぞれ100字以内)を添付してください。さらに、資料のリストを作成し、それを表紙として資料(説明文を添付)をリスト順にまとめて提出してください。

【選考】

＜1次選考＞

出願書類に基づく書類選考

出願書類の結果を総合的に判断して合否を判定します。

<2次選考>

筆記試験、プレゼンテーション、質疑応答、面接の結果を総合的に判断して合否を判定します。

①筆記試験60分：午前

本学科で教育を受けるための基礎学力が備わっているかを判断します。

②主として自己アピール書類に関するプレゼンテーション(20分程度)：午後

③質疑応答と面接（②に続いて）

①～③を行い、その結果と提出書類を総合的に評価して最終合格者を決定します。

※プレゼンテーションは日本語か英語を選択できます。ただし、英語でのプレゼンテーションの場合は、質問等により日本語の理解力もテストします。

※ホワイトボード、予め用意したポスター、パソコン等を必要に応じて使用してください。

※会場には、Windowsパソコン、プロジェクターおよびHDMIケーブルが用意されています。

※Windowsパソコンで作動する一般的なソフトウェア以外を使用したい場合を含め、受験者自身が持参するパソコンを使用しても差し支えありません。

社会理工学部

<都市環境学科>

【出願資格】

以下(1)～(3)の全てに該当する者。

(1)卒業見込みの者は、最終学年1学期(2学期制の場合は前期)まで、卒業した者は最終学期までの5段階方式による全体の学習成績の状況が3.8以上の者。

※但し、英語は「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、数学は「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」、「数学C」、理科は「物理基礎」、「物理」を履修していることが望ましく、可否判定にあたっては履修の有無を考慮することもあります。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

(2)本学で都市環境学を学習するための学習意欲、創造力をアピールするものを持っている者。例えば、以下のいずれかに該当する者。

①社会基盤のソフト・ハードの整備を通じて、社会への貢献を自己の目標と確信する者。

②地域や地球全体の環境保全・環境修復・環境創造に携わりたいと望んでいる者。

③地震・台風・豪雨災害等に対する防災を通して社会に貢献したいと希望する者。

④生徒会活動等を通じて、公共の意思決定に興味を持ち、かつ工学的にそのような問題にアプローチすることに意欲のある者。

(3)基礎学力あるいはデザイン能力等に近い分野で、特別な能力を有する者。例えば、以下のようなことが考えられるが、これに限らず能力を活かせるような分野は、幅広く自己推薦の対象になりうる。

①情報処理やコンピュータに関して少なくとも1つ資格を有する者。

②工業デザインや造形等の創作経験があり、作品の受賞歴を有する者。

③コンピュータソフト等の創作実績があり、作品の独創性を証明しうる者。

④地域社会への貢献活動に自発的に参加し、その成果についての業績を有する者。

⑤災害支援・防災活動等に自発的に参加し、その成果についての実績を有する者。

【出願書類】

■自己推薦書(「所定用紙No.2-(1),No.3」)※記述に際しては、上記【出願資格】に留意してください。

あなたが自己アピールしたい事柄について、それによってあなたの人生でどのようにプラスになったかを含めて、まず「所定用紙No.2-(1)」に100字以内で要約し、「所定用紙No.3」に1,000～1,500字以内(2～3枚)で詳しく記述してください(横書き)。

■課題レポート(「所定用紙No.2-(3),No.3」)

一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)が開催するオンライン授業のうち、公益社団法人土木学会が提供する「比較自然災害学(水災害編)～多発する多様な自然災害にどう向き合うか～第3章:豪雨編」の4つの動画を全て視聴し、総括的にこれらの1)概要と2)考察を記述したレポートを提出してください。

<レポートの書き方>

- ・所定の表紙「所定用紙No.2-(3)」に在籍・出身学校名、氏名(フリガナ)および1)概要を記入してください。
- ・所定の用紙「所定用紙No.3」1枚に、2)考察を記述してください。
- ・表紙と本文はクリップを使ってまとめてください。

<課題レポートで視聴する動画の視聴方法>

理工三学部事務室(E-mail:riko-nyushi-grp@g.chuo-u.ac.jp)までメールにて視聴申請をしてください。メールには以下を入力の上送信してください。申請いただいた方に視聴URLをお送りします。

●メールタイトル:【2027年度高大接続型自己推薦入試 動画視聴申請】

●メール本文 : ・氏名

・該当する出願資格番号(P.3記載の2-1を確認してください)および卒業もしくは卒業予定の学校名

・連絡用メールアドレス(基本的には、連絡用アドレスより送付してください)

■活動実績等に関する資料証明書(表紙)(「所定用紙No.4」)

上記【出願資格】に関連する書類を提出してください。

①自己推薦書に記載した事柄について、証拠となる資料で本人氏名が記載されているものを用意してください(コピー可・**原本証明不要**)。「所定用紙No.4」を表紙として、資料本体は全てA4に揃えてください。なお、**資料中の本人氏名の部分には、マーカーあるいは赤鉛筆で印をつけてください**。本人氏名が記載されていないものは、本人の活動実績であることが客観的に判断できる資料とともに提出してください。

例：資格試験の合格証、賞状、活動が掲載された新聞、雑誌、Webページの写し等

②資料番号は上から順に連番としてください。

■ 教員による所見(「所定用紙No. 5 -(1)」)※PC作成可

在籍または卒業した学校の教員の所見を記入いただき提出してください。作成いただく教員は、本人の高校生活をふまえて記入することができれば役職等は問いません。(例：校長、クラス担任、クラブ顧問等)

【選考】

＜1次選考＞

出願書類に基づく書類選考

出願書類の結果を総合的に判断して合否を判定します。

＜2次選考＞

筆記試験、グループディスカッションの結果を総合的に判断して合否を判定します。

①筆記試験(60分)：午前

基礎学力、論理的思考力、都市環境についての理解や発想を問うもの。

②グループディスカッション：午後

筆記試験の問題を題材にグループディスカッションを行います。

ただし、2次選考の人数が少なかった場合には、評価基準を同様にしたうえで個別面接に変更する可能性があります。

＜ビジネスデータサイエンス学科＞

【出願資格】

以下(1)および(2)の両方に該当する者。

(1)卒業見込みの者は、最終学年1学期(2学期制の場合は前期)まで、卒業した者は最終学期までの5段階方式による全体の学習成績の状況が4.0以上かつ数学の成績が4.3以上の者。

※但し、数学は「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」、「数学C」を履修していることが望ましい。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

(2)本学でビジネスデータサイエンスを学ぶための基礎学力、創造力、知的好奇心、学習意欲をアピールできる者。

例えば、以下のいずれかに該当する者またはそれと同等と認められる者。

①全国的または国際的な規模のコンテスト(日本数学オリンピックや日本情報オリンピック等)に出場している者(予選時のスコアがわかる資料等を提出すること)。

②情報や数学に関する資格(数学検定準1級や統計検定2級以上等)を有する者(合格証もしくはスコアがわかる資料を提出すること)。

③全国大会レベルのコンピュータソフトウェアの創作コンクール等に応募し成果を挙げている者(入賞や予選通過等の場合はそのことがわかる資料を提出すること)。

④全国大会レベルの経営やビジネス創造に関するコンクール等に応募し成果を挙げている者(入賞や予選通過等の場合はそのことがわかる資料を提出すること)。

【出願書類】

■ 自己推薦書(「所定用紙No.2-(1)、No.3」)

ビジネスデータサイエンスに取り組もうとする意欲や適性、能力をアピールしてください。「所定用紙No.2-(1)」に100字以内で要約し、「所定用紙No.3」に500字以内(1枚)で詳しく記述してください(横書き)。

■ 活動実績等に関する資料証明書(表紙)(「所定用紙No.4」)

上記【出願資格】に関連する書類を提出してください。

①自己推薦書に記載した事柄について、証拠となる資料で本人氏名が記載されているものを用意してください(コピー可・**原本証明不要**)。「所定用紙No.4」を表紙として、資料本体は全てA4に揃えてください。なお、**資料中の本人氏名の部分には、マーカーあるいは赤鉛筆で印をつけてください**。本人氏名が記載されていないものは、本人の活動実績であることが客観的に判断できる資料とともに提出してください。

例：資格試験の合格証、賞状、活動が掲載された新聞、雑誌、Webページの写し等

②資料番号は上から順に連番としてください。

■ 事前課題(任意書式)

ビジネスデータサイエンス学科Webサイト内のページ(<https://ds.r.chuo-u.ac.jp/admission2/>)に公開する課題について、記載されている指示や注意に従い、A4にまとめたもの(事前課題を公開するページへは学科サイトの他のページからリンクは貼られていませんのでご注意ください)。

■教員による所見(「所定用紙No. 5 -(1)」)※PC作成可

在籍または卒業した学校の教員の所見を記入いただき提出してください。作成いただく教員は、本人の高校生活をふまえて記入することができれば役職等は問いません(例：校長、クラス担任、クラブ顧問等)。

【選考】

<1次選考>

出願書類に基づく書類選考

出願書類の結果を総合的に判断して可否を判定します。

<2次選考>

筆記試験、面接の結果を総合的に判断して可否を判定します。

①筆記試験(60分)：午前

筆記試験では、読解力や論理的思考能力、問題解決能力、創造力、日本語の記述能力および基礎学力(英語、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B、数学C)を判断します。

②面接30分程度：午後

面接では、出願書類と筆記試験をもとに質疑応答を行います。また、基礎学力を問う質問も行います。

受験者の希望があればパワーポイント等の電子ファイルを使ったプレゼンテーションが可能ですので(会場にはWindowsパソコンおよびパソコン画面を表示可能なプレゼンテーション用の大型モニタが準備されています)事前に方法を検討して面接時に持参してください。また、自己アピールの根拠となる作品等があれば持参してください。

<人間総合理工学科>

【出願資格】

以下(1)および(2)の両方に該当する者。

(1)卒業見込みの者は、最終学年1学期(2学期制の場合は前期)まで、卒業した者は最終学期までの5段階方式による全体の学習成績の状況が4.0以上の者。

※但し、英語は「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、数学は「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」、「数学C」、理科は物理(「物理基礎」および「物理」)、化学(「化学基礎」および「化学」)、生物(「生物基礎」および「生物」)のいずれかを履修していることが望ましい。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

※海外帰国生等、高等学校在学中の学習成績の状況が提出できない場合は、出願前に入試課まで問い合わせること。

問い合わせフォーム：<https://chuo-admissions.zendesk.com/hc/ja/requests/new>

(2)本学で人間総合理工学を学ぶための基礎学力を有し、本学科所属研究室の少なくとも2つ以上に深い興味を持つ者。本学科での学びに有用と考えられる探求心、創造性、コミュニケーション能力等において、自らの能力の高さを強くアピールできる者。それらを客観的に証明できる資格の取得やコンテストでの成果があれば好ましい。

【出願書類】

■自己アピール書類(任意書式)

あなたが自己アピールしたい事柄および志願理由について、まず100字(英語の場合40語)以内で要約し、A4に2,000字(英語の場合800語)以内を目安に詳しく記述してください。記述にあたっては、本学科の研究分野のうち自分が興味を持っているもの(複数可)を明確に示し、その分野に興味を持ったきっかけ・理由、その領域を探究するうえで有用であるとする自己の能力についてのアピール、人間総合理工学科でその分野を学ぶことによるあなた自身の社会貢献・参加の展望等について、具体的に述べてください。

・書類作成にはワープロソフトを利用して、横書きで作成してください。12ポイント以上の文字で印字して、最後に文字数を記載してください。

・本文の内容を分かりやすく補足するため、写真、スケッチ、地図、新聞記事等を使用することを推奨します。その場合は、添付資料があることを本文中に明記したうえで、A4の別紙に貼り付け、それぞれ50字(英語の場合20語)以内の補足説明を加えて、併せて提出してください(上記の2,000字(英語の場合800語)には数えない)。

■活動実績等に関する資料証明書(表紙)(「所定用紙No.4」)

上記【出願資格】に関連する書類を提出してください。

①自己アピール書類に記載した事柄について、証拠となる資料で本人氏名が記載されているものを用意してください(コピー可・原本証明不要)。「所定用紙No.4」を表紙として、資料本体は全てA4に揃えてください。なお、資料中の本人氏名の部分には、マーカーあるいは赤鉛筆で印をつけてください。本人氏名が記載されていないものは、本人の活動実績であることが客観的に判断できる資料とともに提出してください。

例：資格試験の合格証、賞状、活動が掲載された新聞、雑誌、Webページの写し等

②資料番号は上から順に連番としてください。

■教員による所見(「所定用紙No.5-(1)」)※PC作成可

在籍または卒業した学校の教員の所見を記入いただき提出してください。作成いただく教員は、本人の高校生活をふまえて記入することができれば役職等は問いません。(例:校長、クラス担任、クラブ顧問等)

■任意提出書類

自己アピール書類(任意書式)だけでは表現しきれない、あなた自身の個性や人柄、能力の評価において考慮してほしい事柄を示すものがあれば、資料として提出することができます。以下の注意事項に留意し、大学入試の資料として適切であると思われるものを、受験者自身の判断で選択・収集して、提出してください。

- ・資料は、紙の書類等をまとめたファイルまたは音声・動画ファイルとして作成してください。最大10点まで提出できます。
- ・各資料についての説明(それぞれ100字以内、英語の場合は40語以内)を含む資料リストを作成し、必ず一緒に提出してください。資料はこのリストを表紙として、リストの順に並べてください。
- ・書類のファイルはA4とし、複数枚ある場合にはページ番号を振ってください。
- ・授業の課題や部活動の一環として作成したレポート等を資料とする場合は、要旨(A4用紙1枚以内)と課題提示者の講評および評価(形式は任意)を添えてください。グループで行った課題については、グループの人数・構成、グループの中であなた自身が果たした役割を、要旨の中に含めてください。
- ・取得資格やコンテストの結果等に関しては、判定基準や選考過程の分かる資料があれば、併せて提出してください。
- ・音声、動画ファイルを提出する場合には、一般的なWindowsパソコンに付随するソフトウェア(Windows Media Player等)で再生可能であることを、事前に受験者の責任において確認してください。提出するメディアは、CD-ROMとします。
- ・自作のコンピュータ・プログラムやソフトウェア、スマートフォン・アプリ等を資料とする場合は、プログラム等自体ではなく、その機能や動作の様子をまとめた動画やレポートとして提出してください。2次選考のプレゼンテーションで、実際にデモンストレーションをすることも可能です。但し、そのための機材・パソコン等は、受験者自身で用意してもらう可能性があります。
- ・原則として提出資料は返却しません。

■戸籍個人事項証明書(戸籍抄本)またはパスポートの写し※海外帰国生の場合のみ提出

- ・パスポートについては、「氏名・国籍・パスポート番号・発行年月日」記載部分をA4用紙にコピーして提出してください。
- ・日本国の永住権を有する場合は、永住許可・特別永住許可を証明する書類のコピーを提出してください。

【選考】

<1次選考>

出願書類に基づく書類選考

出願書類の結果を総合的に判断して合否を判定します。

<2次選考>

小論文、プレゼンテーション、質疑応答の結果を総合的に判断して合否を判定します。

①主として自己アピール書類に関するプレゼンテーション(15分程度)：午後

②質疑応答(①に続いて)

①、②を行い、その結果と提出書類を総合的に評価して最終合格者を決定します。

※2次選考に進む場合は小論文の提出が必要です。小論文課題の具体的な内容は、1次選考合格発表時にお知らせしますので、必ず確認し、指示に従ってください。

※プレゼンテーションは日本語か英語を選択できます。但し、英語の場合は、質問等で日本語の理解力もテストします。

※ホワイトボード、予め用意したポスター、パソコン等を必要に応じて使用してください。

※会場には、Windows/パソコンおよびプロジェクターが用意されています。

※Windowsパソコンで動作する一般的なソフトウェア以外を使用したい場合には、受験者自身にてパソコンを持参してください。

先進理工学部

<精密機械工学科>

【出願資格】

以下の(1)に該当し、(2)または(3)のいずれかに該当する者。

(1)本学で精密機械工学を学習するための学習意欲、創造性をアピールする実績(以下①～④のいずれか)を持っている者。

- ①各種科学賞(例えば、日本学生科学賞の入賞や全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰制度のゴールド認定)。
- ②各種ものづくりコンテスト(例えば、高校生ものづくりコンテスト、若年者ものづくり競技大会)での入賞や予選通過。
- ③各種ロボットコンテスト(例えば、全国高等学校ロボット競技大会)での入賞や予選通過。
- ④技能五輪(例えば、技能五輪全国大会等)への参加経験。

※団体で挙げた成果の場合は、出願者の役割を出願書類に明記すること。

(2)卒業見込みの者は、最終学年1学期(2学期制の場合は前期)まで、卒業した者は最終学期までの5段階方式による全体の学習成績の状況が3.8以上、「数学」と「物理」のそれぞれの学習成績の状況が4.0以上の者。数学は「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」、物理は「物理基礎」の履修を必須とする。

※但し、数学には「数学Ⅲ」と「数学C」、物理には「物理」が含まれていることが望ましい。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

(3)以下①および②の両方に該当する者(※本項は海外帰国生等を想定した条件です)

- ①日本国籍を有する者、または「出入国管理及び難民認定法」(入管法)による「永住者」の在留資格を有する者もしくは「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」(入管特例法)による「特別永住者」。
- ②自己の意思に基づき、または保護者の海外勤務に伴い、海外に居住し、現地の高等学校等で正規の教育課程(10学年以上に相当する課程)に基づく教育を2暦年または2学年以上継続して受けた者。

【出願書類】

■自己推薦書(「所定用紙No.2-(1),No.3」)

あなたが精密機械工学を学習するための学習意欲、創造性をアピールするものについて、それがあなたの人生でどのようにプラスになったかを含めて、まず「所定用紙No.2-(1)」に100字以内で要約し、「所定用紙No.3」に500字以内(1枚)で詳しく記述してください(横書き)。「所定用紙No.3」では、精密機械工学に取り組む意欲や適性、能力についてアピールしてください。その際、上記【学部・学科別出願資格】(1)①～④のどれに該当するかを述べ、その内容を説明してください。団体で参加した場合は、出願者の役割を説明してください。

■活動実績等に関する資料証明書(表紙)(「所定用紙No.4」)

上記【出願資格】に関連する書類を提出してください。

①自己推薦書に記載した事柄について、証拠となる資料で本人氏名が記載されているものを用意してください(**コピー可・原本証明不要**)。「所定用紙No.4」を表紙として、資料本体は全てA4に揃えてください。なお、**資料中の本人氏名の部分には、マーカーあるいは赤鉛筆で印をつけてください**。本人氏名が記載されていないものは、本人の活動実績であることが客観的に判断できる資料とともに提出してください。

例：資格試験の合格証、賞状、活動が掲載された新聞、雑誌、Webページの写し等

②資料番号は上から順に連番としてください。

■教員による所見(「所定用紙No.5-(1)」)※PC作成可

在籍または卒業した学校の教員の所見を記入いただき提出してください。作成いただく教員は、本人の高校生活をふまえて記入することができれば役職等は問いません(例：校長、クラス担任、クラブ顧問等)。

■戸籍個人事項証明書(戸籍抄本)またはパスポートの写し※海外帰国生の場合のみ提出

- ・パスポートについては、「氏名、国籍、パスポート番号、発行年月日」記載部分をA4用紙にコピーして提出してください。
- ・日本国の永住権を有する場合は、永住許可・特別永住許可を証明する書類のコピーを提出してください。

【選考】

<1次選考>

出願書類に基づく書類選考

出願書類の結果を総合的に判断して合否を判定します。

<2次選考>

筆記試験、面接の結果を総合的に判断して可否を判定します。

①筆記試験(90分)：午前

本学科で教育を受けるための最低限の基礎学力チェックを行います。

②面接(20分)：午後

面接では、これまでのものづくりの経験等、学習意欲や創造性をアピールするもの(上記【出願資格】(1)の①～④に該当するもの)と、創作課題について、パソコン等を利用したプレゼンテーションをしていただき(10分程度)、質疑応答を行います。

※2次選考にあたり創作課題の作成が必要です。創作課題の具体的な内容は、1次選考合格発表時にお知らせしますので、必ず確認し、指示に従ってください。

※プレゼンテーションは、パソコン等を使用してパワーポイント等のPCプレゼンテーションツールにより発表してください。

会場にはプロジェクターとそれに接続するHDMIケーブルが準備されています。

<電気電子情報通信工学科>

【出願資格】

以下(1)および(2)の両方に該当する者。

(1)卒業見込みの者は、最終学年1学期(2学期制の場合は前期)まで、卒業した者は最終学期までの5段階方式による学習成績の状況が「数学」、「理科」共に4.0以上の者。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

(2)電気電子情報通信分野において主体的に活躍した実績、または今後主体的に活躍するために有用と考える優れた能力をアピールできる者。それらを客観的に証明できる資格の取得やコンテストでの成果があれば提出すること。

【出願書類】

■自己推薦書(「所定用紙 No.2-(1),No.3」)

あなたが本学科を志望するに至った理由が明確に分かるように、まず「所定用紙No.2-(1)」に100字以内で要約し、「所定用紙No.3」に500字以内(1枚)で詳しく記述してください(横書き)。

■活動実績等に関する資料証明書(表紙)(「所定用紙No.4」)

上記【出願資格】に関連する書類を提出してください。

①自己推薦書に記載した事柄について、証拠となる資料で本人氏名が記載されているものを用意してください(コピー可・**原本証明不要**)。「所定用紙No.4」を表紙として、資料本体は全てA4に揃えてください。なお、**資料中の本人氏名の部分には、マーカーあるいは赤鉛筆で印をつけてください。**本人氏名が記載されていないものは、本人の活動実績であることが客観的に判断できる資料とともに提出してください。

例：資格試験の合格証、賞状、活動が掲載された新聞、雑誌、Webページの写し等

②資料番号は上から順に連番としてください。

■事前課題(任意書式)

電気電子情報通信分野において主体的に取り組んで得た実績、または今後主体的に活躍するためにあなたが持っていると考えられる能力や意欲について、具体的な取り組みや経験に基づいて記述してください。用紙はA4で枚数は問いません。

また、高校の物理の教科書のうち、電気と磁気に関連する範囲を熟読し、よく理解しておいてください。2次選考では、電気と磁気の知識を活用した演習または実験を行ってもらいます(P.19『6』学科別Q&A参照)。

■教員による所見(「所定用紙No.5-(1)」)※PC作成可

在籍または卒業した学校の教員の所見を記入いただき提出してください。作成いただく教員は、本人の高校生活をふまえて記入することができれば役職等は問いません。(例：校長、クラス担任、クラブ顧問等)

【選考】

<1次選考>

出願書類に基づく書類選考

出願書類の結果を総合的に判断して可否を判定します。

<2次選考>

実験または演習、面接の結果を総合的に判断して可否を判定します。

①実験または演習180分程度(説明を含む)：午前

数学や理科の知識を活用し、設定された課題に主体的に取り組んでもらいます。

②面接20分～30分程度(①で取り組んだ課題の成果発表10分を含む)：午後

※①と②により主体性、洞察力、知識獲得力を総合評価します。

<情報工学科>

【出願資格】

以下(1)および(2)の両方に該当する者。

(1)卒業見込みの者は最終学年1学期(2学期制の場合は前期)まで、卒業した者は最終学期までの5段階方式による全体の学習成績の状況が4.0以上の者。

※P.5〈調査書提出の留意点〉参照

(2)コミュニケーション力が「相手の意見をひととおり理解し、相手に自身の意見をひととおり伝えられる」水準に達していること、組織的行動能力が「指示されると作業できる。目標を達成するため自ら動ければ、なお良い」水準に達していること、自己実現力が「自ら明確な目標を定め、その実現のために道筋を考え努力する。その際、自己管理を怠らない」水準に達していること、および多様性創発力が「多様性(文化、習慣、価値観等)を意識し、理解しようとしている」水準に達していることの証拠として出願者自身が考える何らかの能動的学習の実績をアピールできる者(以下①～③は例)。

- ①全国的または国際的な規模の科学に関するコンテスト(日本・国際情報オリンピックや日本・国際数学オリンピック等)において、優秀な成績を修めた者。
- ②単独またはチームとして科学技術分野の秀逸な作品(自作のソフトウェアやハードウェア、理数分野の優れた自由課題の成果物)を自力で創作した者。
- ③海外において何らかの活動経験を有し、コミュニケーション力、組織的行動能力、自己実現力、多様性創発力との関連性を自ら明確に述べることができる者。

【出願書類】

■自己推薦書(「所定用紙No.2-(1)、No.3」)として、以下①～⑤(海外帰国生の場合は①～⑥)を全て提出すること。

- ①情報工学をどのような分野と考えているかについて論述した作文1枚以内(「所定用紙No.3」の冒頭に「①」と記し、直後の升目から本文開始)
- ②自己アピールしたい事柄(上記【出願資格】の(2)参照)を明示し客観的に説明した作文1枚以内(「所定用紙No.3」の冒頭に「②」と記し、直後の升目から本文開始)
- ③上記②を根拠としつつ自己アピールする作文1枚以内(「所定用紙No.3」の冒頭に「③」と記し、直後の升目から本文開始)
- ④自己アピールしたい事柄について、上記の①～③を要約した作文1枚(「所定用紙No.2-(1)」)
- ⑤国内受験生の場合、所属高等学校等において既に学んだ数学の全教科書に載っている全課題・問題等および解答を自筆にて記述したA4ノート(全てのノートの裏表紙に在籍または卒業した高等学校等の教員1名による校閲と署名・押印を受けた上で提出)海外帰国生の場合、日本における高等学校の普通科に対応する数学の教科書・参考書等を随意に入手したうえで、同様のノートを作成し提出
- ⑥海外帰国生の場合のみ、戸籍個人事項証明書(戸籍抄本)またはパスポートの写しを提出
 - ・パスポートについては、「氏名、国籍、パスポート番号、発行年月日」記載部分をA4用紙にコピーして提出。
 - ・日本国の永住権を有する場合は、永住許可・特別永住許可を証明する書類のコピーを提出。

■活動実績等に関する資料証明書(表紙)(「所定用紙No.4」)

上記【出願資格】に関連する書類を提出してください。

- ①自己推薦書に記載した事柄について、証拠となる資料で本人氏名が記載されているものを用意してください(**コピー可・原本証明不要**)。「所定用紙No.4」を表紙として、資料本体は全てA4に揃えてください。なお、**資料中の本人氏名の部分には、マーカーあるいは赤鉛筆で印をつけてください**。本人氏名が記載されていないものは、本人の活動実績であることが客観的に判断できる資料とともに提出してください。

例：資格試験の合格証、賞状、活動が掲載された新聞、雑誌、Webページの写し等

- ②資料番号は上から順に連番としてください。

■教員による所見(「所定用紙No.5-(1)」)※PC作成可

在籍または卒業した学校の教員の所見を記入いただき提出してください。作成いただく教員は、本人の高校生活をふまえて記入することができれば役職等は問いません(例：校長、クラス担任、クラブ顧問等)。

【選考】

<1次選考>

出願書類に基づく書類選考

出願書類の結果を総合的に判断して合否を判定します。

<2次選考>

筆記試験、面接の結果を総合的に判断して可否を判定します。

①筆記試験(60分)：午前

知識獲得力が「ひととおり情報収集し、新しい知識やノウハウを習得できる」水準に達していることおよび専門性が「数学を概ね理解し、それに関連する情報の理解と正確性の判断を経て自ら主張できる。ある程度の緻密さや正確さを伴った作業が行える」水準に達していることを確認するため、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B〈数列〉」、「数学C〈ベクトル、平面上の曲線と複素数平面〉」に関する筆記試験を行います。

②面接(30分程度)：午後

問題解決力が「与えられた課題を正しく理解し、解決しようとする」水準に達していることおよび創造力が「普段から自身の興味ある分野について情報収集し、新しい発想や技術に関心をもっている」水準に達していることを主に確認するため、出願書類と筆記試験に基づいて質疑応答を行います。1次選考において提出した出願書類のほかにも、アピールの根拠となる作品等や写真・設計図等の現物があるときは、それらを持参しても構いません。また、PCプレゼンテーションツールを利用した随意発表(10分程度)も認めます。なお、標準的なPC、プロジェクター、ケーブル等は試験会場に用意してありますが、持参してもかまいません。

【6】 学科別Q&A

出願する学科のQ&Aを必ず確認してください。



【7】 その他

(1) 過年度試験結果

学部	学科	2026年度		2025年度	
		志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
基幹理工学部	数学科	15	5	29	8
	物理学科	3	3	7	5
	応用化学科	3	1	3	3
	生命科学科	2	0	1	0
社会理工学部	都市環境学科	13	2	15	3
	ビジネスデータサイエンス学科	0	0	2	0
	人間総合理工学科	17	7	33	11
先進理工学部	精密機械工学科	0	0	0	0
	電気電子情報通信工学科	7	2	4	2
	情報工学科	3	0	2	1
計		63	20	96	33

※3学部(基幹理工、社会理工、先進理工学部)は2026年度入学試験より募集開始

(2) 通学キャンパス

基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部の授業は、原則として後樂園キャンパスで行います。